

主要木材の短期需給見通し(平成19年第4四半期及び平成20年第1四半期)の概要

1 国産材(製材用丸太)

製材用丸太の需要は、前年に比べて新設木造住宅着工戸数がやや減少し、一戸当たりの新設木造住宅着工床面積がわずかに減少するものと見込まれることなどから、平成19年第4四半期は320万m³程度(前年同期比(以下同じ。))96.3%)、平成20年第1四半期は310万m³程度(92.7%)になるものと見通される。

2 米材

(1) 丸太

需要は、前年に比べて新設木造住宅着工戸数がやや減少し、一戸当たりの新設木造住宅着工床面積がわずかに減少するものと見込まれることなどから、平成19年第4四半期は78万m³程度(99.5%)、平成20年第1四半期は80万m³程度(105.3%)になるものと見通される。

供給は、需要動向を反映し、平成19年第4四半期は80万m³程度(109.2%)、平成20年第1四半期は80万m³程度(104.1%)になるものと見通される。

(2) 製材品

需要は、前年に比べて新設木造住宅着工戸数がやや減少し、一戸当たりの新設木造住宅着工床面積がわずかに減少するものと見込まれることなどから、平成19年第4四半期は79万m³程度(92.2%)、平成20年第1四半期は81万m³程度(116.2%)になるものと見通される。

供給は、需要動向を反映し、平成19年第4四半期は79万m³程度(92.0%)、平成20年第1四半期は、産地国の生産工場の本格稼働も見込まれることから80万m³程度(120.2%)になるものと見通される。

3 欧州材(製材品)

供給は、新設木造住宅着工戸数の減少等により在庫の調整になお時間を要するものと見込まれることなどから、平成19年第4四半期は65万m³程度(82.6%)、平成20年第1四半期は70万m³(87.9%)になるものと見通される。

4 南洋材

(1) 丸太

製材用丸太の需要は、梱包及びパレット向けの需要が見込まれることなどから、平成19年第4四半期は3万m³程度(74.0%)、平成20年第1四半期は3万m³程度(88.0%)になるものと見通される。

また、合板用丸太の需要は、合板原木の針葉樹への転換が進んでいることなどから、平成19年第4四半期は26万m³程度(84.5%)、平成20年第1四半期は26万m³程度(100.5%)になるものと見通される。

一方、製材用、合板用を合わせた丸太の供給は、需要動向を反映し、平成19年第4四半期は30万m³程度(85.7%)、平成20年第1四半期は28万m³程度(96.8%)になるものと見通される。

(2) 製材品

需要は、集成材や栈木等としての需要が見込まれることなどから、平成19年第4四半期は12万m³程度(92.0%)、平成20年第1四半期は12万m³程度(100.9%)になるものと見通される。

供給は、需要動向を反映し、平成19年第4四半期は12万m³程度(95.1%)、平成20年第1四半期は12万m³程度(93.6%)になるものと見通される。

5 北洋材

(1) 丸太

需要は、新設木造住宅着工戸数の減少等により在庫の調整に時間を要するものと見込まれることなどから、平成19年第4四半期は90万m³程度(81.9%)、平成20年第1四半期は105万m³程度(87.3%)になるものと見通される。

供給は、平成19年第4四半期は、需要動向を反映し85万m³程度(91.3%)、平成20年第1四半期は、本格的な伐採時期を迎えるものの、産地における輸出税の引き上げを1年以内に控え、中国等からの引き合いが見込まれることから110万m³程度(79.7%)になるものと見通される。

(2) 製材品

供給は、新設木造住宅着工戸数の減少等により在庫の調整に時間を要するものと見込まれることなどから、平成19年第4四半期は25万m³程度(100.7%)、平成20年第1四半期は30万m³程度(98.9%)になるものと見通される。

6 ニュージーランド・チリ材

(1) 丸太

需要は、梱包及びパレット向けの需要が見込まれるものの、コスト高から合板向けの需要が伸びないと見込まれることなどから、平成19年第4四半期は22万m³程度(87.0%)、平成20年第1四半期は17万m³程度(101.2%)になるものと見通される。

供給は、需要動向を反映し、平成19年第4四半期は21万m³程度(88.9%)、平成20年第1四半期は22万m³程度(95.7%)になるものと見通される。

(2) 製材品

需要は、梱包及びパレット向けの需要が見込まれるものの、コスト高から、平成19年第4四半期は11万m³程度(79.5%)、平成20年第1四半期は13万m³程度(99.0%)になるものと見通される。

供給は、需要動向を反映し、平成19年第4四半期は11万m³程度(75.5%)、平成20年第1四半期は11万m³程度(77.8%)になるものと見通される。

7 合板

国内製造合板と輸入合板を合わせた総需要量は、前年に比べて新設木造住宅着工戸数がやや減少し、一戸当たりの新設木造住宅着工床面積がわずかに減少するものと見込まれることなどから、平成19年第4四半期は177万m³程度(86.5%)、平成20年第1四半期は184万m³程度(95.4%)になるものと見通される。

輸入合板の供給量は、新設木造住宅着工戸数の減少等により在庫の調整にお時間を要するものと見込まれることなどから、平成19年第4四半期は111万m³程度(83.9%)、平成20年第1四半期は108万m³程度(94.9%)になるものと見通される。

国内製造合板の供給量は、新設木造住宅着工戸数の減少等により減産を行うものと見込まれることなどから、平成19年第4四半期は80万m³程度(94.1%)、平成20年第1四半期は80万m³程度(99.4%)になるものと見通される。

8 構造用集成材

輸入集成材の供給量は、新設木造住宅着工戸数の減少等により在庫の調整にお時間を要するものと見込まれることなどから、平成19年第4四半期は17万m³程度(80.9%)、平成20年第1四半期は17万m³程度(89.2%)になるものと見通される。

また、国内製造集成材の供給量は、新設木造住宅着工戸数の減少等により減産を行うものと見込まれることなどから、平成19年第4四半期は25万m³程度(64.6%)、平成20年第1四半期は30万m³程度(81.1%)になるものと見通される。